

平成28年12月期 決算説明会



平成29年2月28日
大倉工業株式会社

1

当社の概況

社名	大倉工業株式会社 Okura Industrial Co.,Ltd.
本社所在地	香川県丸亀市中津町1515番地
代表者	代表取締役社長 高濱 和則
設立	昭和22年7月11日
資本金	86億1千9百万円
発行済株式数	62,074,351株
従業員数	1,980名 (連結子会社13社含む)

【平成28年12月末現在】



2

目次

1. 平成28年12月期決算の概要
2. 平成29年12月期の業績予想



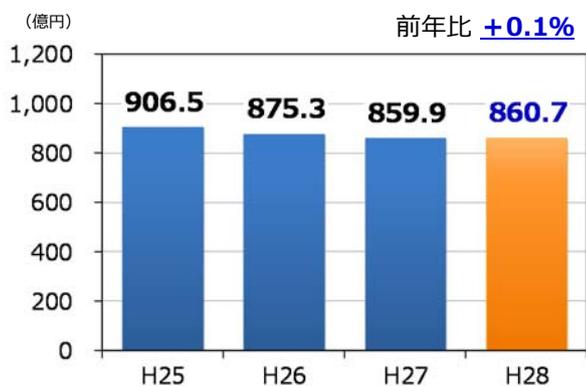
3

1. 平成28年12月期決算の概要



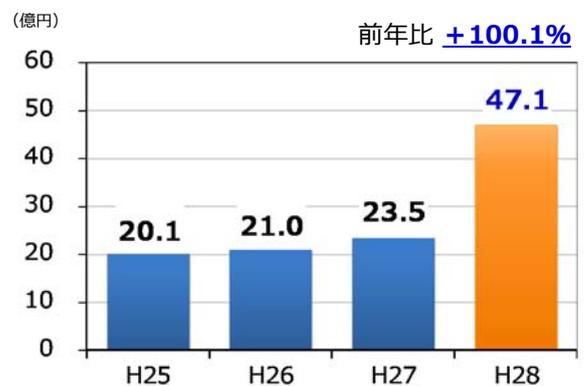
4

連結売上高 通期実績



5

連結営業利益 通期実績



6

売上高・営業利益

【売上高】

- 前年比+0.1%（上期：+1.6%下期：▲1.4%）

合成樹脂：数量増(+3.4%)なるも売価下落もあり下期減収

【営業利益】 連結決算開始後、最高の利益

- 合成樹脂：原料値下がりと数量増により増益
- 新規材料：新用途増と新工場の改善により増益
- 建 材：微増

OKURA 7



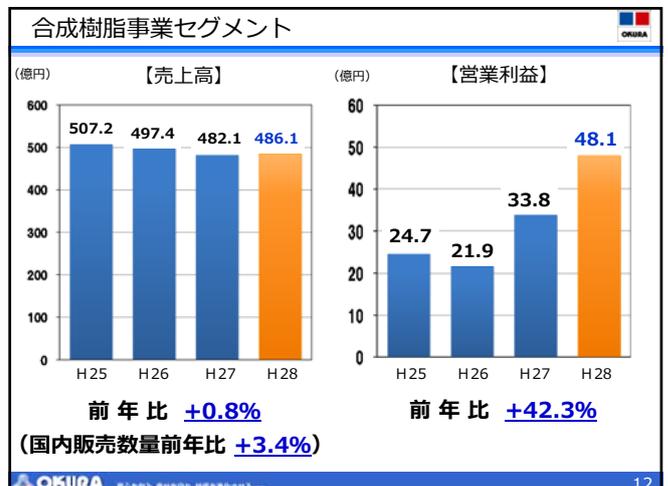
特別損益

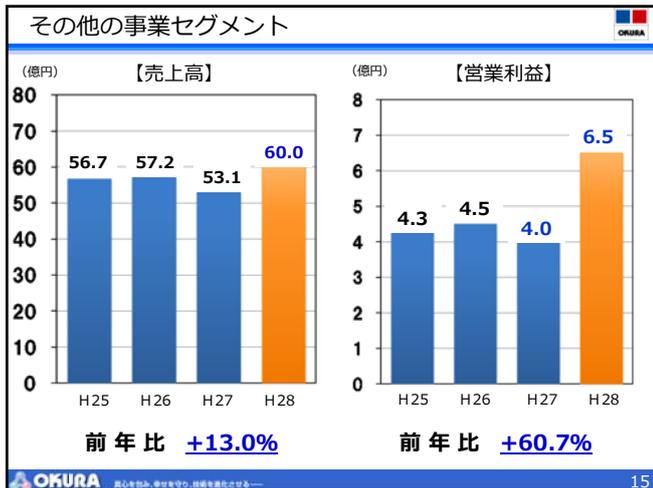
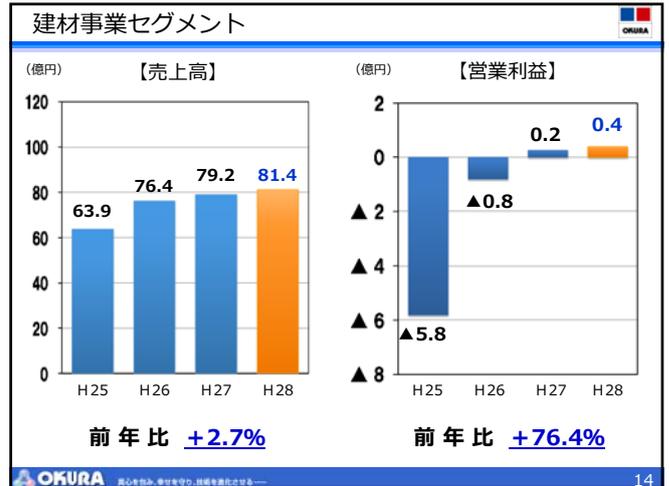
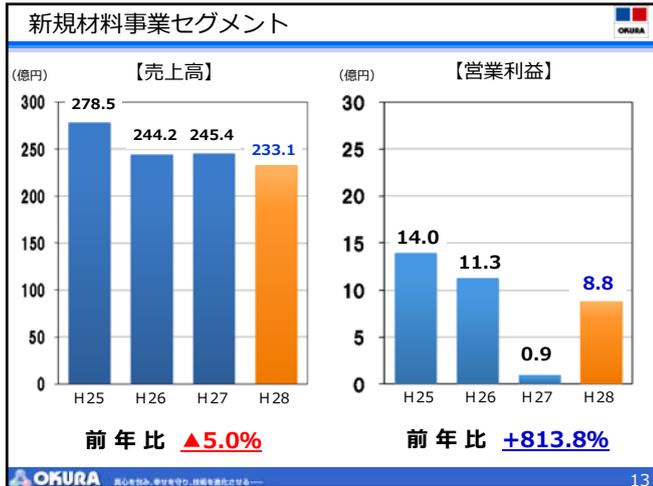
【特別損益】

- **固定資産売却益**
大阪支店・社宅跡地売却 13億円
- **固定資産除売却損**
既存設備の撤去等 3億円
- **減損損失**
新規材料事業部
新工場（G棟）光学フィルム製造装置 18億円

OKURA 10

セグメント別の概要





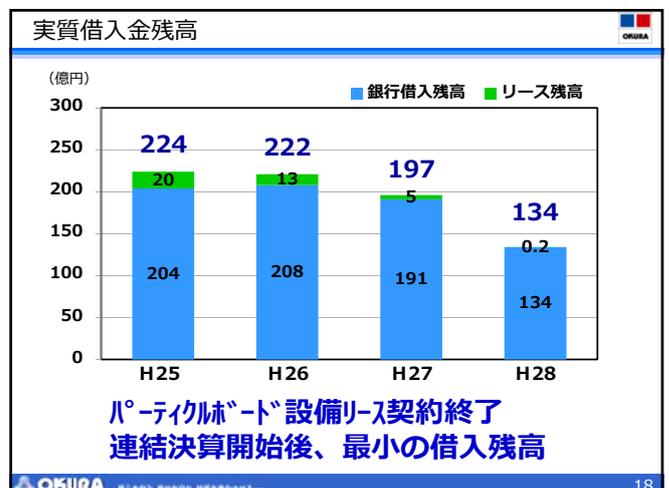
キャッシュ・フロー

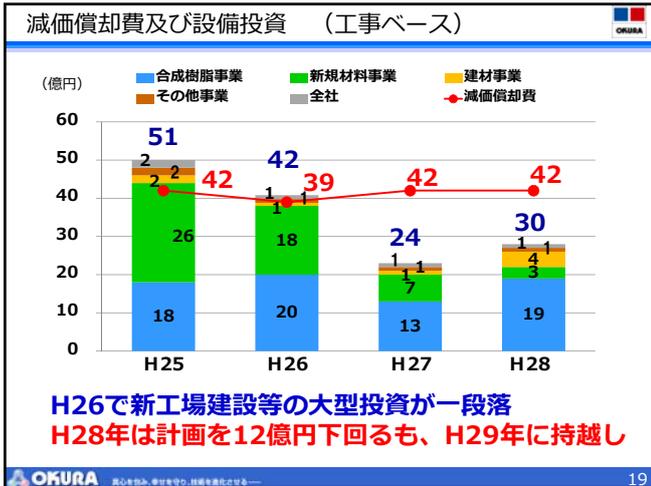
連結キャッシュ・フロー計算書

	H25年	H26年	H27年	H28年
現金及び現金同等物期首残高	74.0	78.3	67.3	73.8
営業活動によるキャッシュ・フロー ()	37.9 (62.0)	54.4	57.5	75.5
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲38.5	▲59.0	▲21.3	▲7.1
財務活動によるキャッシュ・フロー (▲)	3.8 (▲20.3)	▲6.6	▲30.4	▲66.9
現金及び現金同等物期末残高	78.3	67.3	73.8	74.7

※ () 内は、手形割引等考慮後の実質キャッシュ・フロー

**営業CFは大幅増加。
土地などの売却収入14億円により投資CFは減少。**





2. 平成29年12月期の業績予想

業績予想

マクロ見通し

日本経済は緩やかな回復が続くも不透明な状況

売上高

合成：シュリンク製品等の数量増により増収
 新規：新用途フィルムが伸びるも前年並み
 建材：住宅着工戸数の減少により前年並み

営業利益

合成：原料値上がりにより減益
 新規：上記増収や新工場の損益改善効果により増益
 (償却費△1.6億円)
 建材：フロア用・構造用中心に増益(償却費△1.0億円)

業績予想

	上期	下期	通期	前年
売上高	415	450	865	860
営業利益	19.0	20.0	39.0	47.1
経常利益	19.0	20.0	39.0	46.5
親会社株主に帰属する当期純利益	13.5	12.5	26.0	25.0

業績予想 セグメント別売上高

	上期	下期	通期	前年
合成樹脂事業	245	255	500	486
新規材料事業	105	125	230	233
建材事業	40	40	80	81
その他	25	30	55	60
合計	415	450	865	860

業績予想 セグメント別営業利益

	上期	下期	通期	前年
合成樹脂事業	19.0	18.0	37.0	48.1
新規材料事業	5.5	7.5	13.0	8.8
建材事業	0.8	1.2	2.0	0.4
その他	2.5	2.5	5.0	6.5
調整額	▲8.8	▲9.2	▲18.0	▲16.9
合計	19.0	20.0	39.0	47.1

設備投資計画

H29年：設備投資額64億円
H28年持越し分も含めH28・29累計でほぼ中計どおり

合成樹脂事業：40億円
シュリンクフィルム製造装置6億円、印刷機6億円等

新規材料事業：11億円 光学フィルム関連設備改造・更新等

建材事業：3億円 パーティクルボード製造関連設備等

その他：8億円 新システム構築4億円等

OKURA 25

グループ基本方針

大倉工業グループの目指す姿

「社会から信頼される企業」
であり続ける

成長分野にソリューションを提供できる
「技術優位な企業集団」

OKURA 27

基本方針

全社戦略は
国内市場は「量」・海外市場は「質」

重点課題

- ① 不採算製品の整理と得意分野での拡大
- ② 事業組織を再編し、
新分野・新ニーズ対応による事業規模拡大
- ③ 新規事業の探索

↓

「収益基盤の安定強化」

OKURA 28

事業別基本方針

合成樹脂事業

選択と集中による事業領域の拡大

重点課題

- ① BU再編（6グループ制→4BU制）
- ② シュリンク製品拡販のための最新設備導入
- ③ 関東地区での製造・営業強化

↓

「利益体質の強化」

OKURA 30

中計2年目のローリング【合成樹脂事業】

中計1年目の到達点

- プロダクトアウトの製品グループ制からマーケットインのB U制に組織再編
- 拡販により業績は堅調に推移

中計2年目の方針

- 顧客構造を変え、伸びている分野を増やす
- 設備の増強投資及び更新投資を着実に実施

OKURA 31

新規材料事業

利益が出る事業に立て直し
成長分野での要求に対応

重点課題

- ① G棟の安定稼働と生産性向上
- ② 新用途向け光学フィルム

「市場でのプレゼンス向上」

OKURA 32

中計2年目のローリング【新規材料事業】

中計1年目の到達点

- G棟の安定稼働は前進するも赤字から脱却できず一旦減損(H29年減価償却費2.6億円減)
- 失注や見込み違いはあったものの、全体の営業利益は前年より改善

中計2年目の方針

- 既存ラインの安定稼働
- 新用途フィルムの拡販

OKURA 33

建材事業

高付加価値製品の拡充

重点課題

- ① PBの生産・販売の最適化
- ② フロア拡販、構造用PB事業の本格化
- ③ ラミネート技術の進化と製品開発

「事業の安定的な黒字化」

OKURA 34

中計2年目のローリング【建材事業】

中計1年目の到達点

- P Bフロア関連製品が堅調に推移
- 構造用P Bは若干遅れるものの拡販が進行中

中計2年目の方針

- P Bフロア及び構造用P Bの拡販
- 予防保全によりP B製造ラインの安定稼働
- ラミネート技術の深化

OKURA 35

その他の事業

地域密着と新商品開発

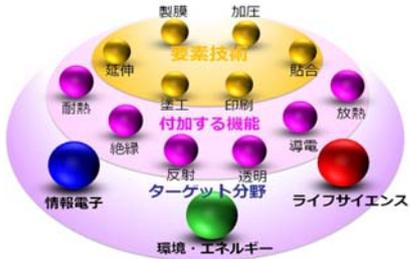
重点課題

- ホテル 地域貢献と固定費の引下げ
- 情報 次の柱となる外販製品の開発
- ハウス 耐震・省エネ商品へシフト
- プレカット 地域一番の競争カキープ、利益率の向上

「収益基盤の安定強化」

OKURA 36

「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「情報電子」
新しい技術の獲得 新規事業に繋がるテーマ開発



【開発の方向性 要素技術の体系図】

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。